

平成 25 年度 第 2 回 CCC 社会学グループ運営委員会 議事概要 (案)

- I. 日時 : 平成 26 年 2 月 10 日 (月) 14:00~16:00
- II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者: 竹田委員 犬塚委員 土屋委員 (事務局) 井端事務局長 森下 松本

IV. 資料

- 資料① 平成 25 年度 CCC 社会学グループ運営委員会の活動計画
- 資料② 社会学教育における教育改善モデルへのアンケート結果
- 資料③ 社会学分野 社会学教育における学士力の考察
- 参考 1 「学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査」単純集計結果
- 参考 2 教育再生実行会議第三次提言「これからの大学教育等の在り方について」
- 参考 3 教育振興基本計画 (平成 25 年 6 月 14 日閣議決定)
- 参考 4 「オンライン授業の衝撃」(朝日新聞 2013 年 3 月 6 日・8 日付ほか)
- 参考 5 「誰でも無料 ネット講義」(朝日新聞 2013 年 10 月 12 日付ほか)
- 参考 6 「再生会議 国の助成金 見直し提言へ」(日本経済新聞 2013 年 10 月 30 日付)
- 参考 7 教育再生実行会議第四次提言「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について」
- 参考 8 「教授会の権限、4 項目に」(日本経済新聞 2013 年 12 月 6 日付)
- 参考 9 「授業に『タブレット革命』」(日本経済新聞 2013 年 11 月 30 日付)
- 参考 10 FSP 実践講座の授業内容と運営の工夫 (Future Skills Project 研究会活動報告)
- 参考 11 私立大学等改革総合試演事業 配点区分表
- 参考 12 「ムーク (MOOC) と反転授業がもたらす学びの変革」(JUICE Journal 2013 年度 No.3)

V. 議事内容

1. アクティブ・ラーニング実現のために、配布資料の確認を行った。
2. アンケートを踏まえた教育改善モデルの実現に向けた課題について、検討を行った。
 - (1) アンケートへの対応として、社会学教育における学士力の考察 (資料③) の前段 3 行の文言を書き換えた。問題の「解決を図る」には具体的な行動が伴うため、対象としての地球環境も含めた「新たな相互関係づくり」という視点を盛り込むこととした。
 - (2) アクティブ・ラーニング=主体的な学びの内容について、配布資料を確認しながら検討した。
 - ① 学生が「自分で組み立てる」スタイルとして FSP 実践講座に注目できる (参考 10)。
 - ② 一般教員には、マネジメントが難しい。
 - ③ 「学びの体験」をどうつくるかが課題となっている。
 - ④ 学生の身近な問題は「小さく」感じてしまうので、動機づけが難しい。
 - ⑤ 「学生の『主体性』を志向しながら『学生管理』を厳しくせざるを得ない」という矛盾がある。
 - ⑥ 学生に染み込んだ「形式重視」を乗り越える必要がある。
2. 今後の研究の進め方について
 - ① アクティブ・ラーニングに関しては、単なる事例紹介の段階は過ぎたので、今後は方向性、特に ICT を活用したシステムづくり・プラットフォームづくりが求められる。

- ②プロジェクト学習や課題型学習を実践していく上でのシステム要件について、「プラットフォーム型企業」へ伝えていく場づくり・環境づくりも課題である。
- ③到達目標に合わせて、学習成果の測定方法も見直されるべきである。具体的には教員・学生間、学生相互、あるいはチームティーチングにおける教員間の対話、社会（学外）からの評価といった視点が盛り込まれるべきである。
- ④その意味で、対話「集会」といった意見交換のかたちも模索できるのではないか。
- ⑤教室という空間を共有しながら、分散型・個別型学習を展開できるようなハード規格が整ってきたので、技術革新に対応したプログラム開発も視野に入れるべきである。
- ⑥その場合にも、ポートフォリオの事例に見られるように、システム自体よりも学生へのフィードバックのような運用の仕方に検討課題が見られる場合もある点を留意する。

3. 次回の委員会

日時：平成26年4月21日（月） 13：30～15：30

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

今回は、平成26年度の委員会活動に進め方について検討する。具体的には以下の通り。

- ・能動的学修実現に向けた効果的な取り組み方策研究について
- ・意見交換のための対話集会の取組みの進め方について